

Ⅷ 久喜市立のぞみ園 事業報告

令和3年度事業計画に基づいて以下の事業を行いました。

1 実施事業

(1) 定員と現員

令和4.3.31現在

事業名	定員	現員
児童発達支援	定員10名	11名(男児6名、女児5名)

<入退園等>

入園4名(4月1日 男児2名 女児2名)

卒園2名(男児1名:就学先 久喜市立菖蒲東小学校 特別支援学級

女児1名:就学先 埼玉県立宮代特別支援学校)

退園2名(2月28日付 女児1名 引っ越しのため

3月31日付 男児1名 保育園への移行のため)

<併用の状況>

8名 幼稚園・保育園との併用

(久喜市立中央幼稚園、久喜市立すみれ保育園、おひさま保育園、長龍寺幼稚園)

(2) 利用者の状況

ア 年齢構成

令和4.3.31現在

区分	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	平均
男	0	0	0	2	3	1	4.8歳
女	0	0	1	0	3	1	4.8歳
計	0	0	1	2	6	2	4.8歳

イ 障害者手帳の所持状況

令和4.3.31現在

区分	療育				身体	なし	計
	㊤	A	B	C	1級		
男	0	1	0	0	1	4	6
女	0	0	1	2	1	1	5
計	0	1	1	2	2	5	11

ウ 利用率の状況

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開園日数	21	18	22	20	19	20	21	20	20	19	18	22	240日
延利用者数	174	150	187	162	140	150	138	137	137	97	105	106	1,683
利用率	82.9	83.3	85.0	81.0	73.7	75.0	65.7	68.5	68.5	51.1	58.3	48.2	70.1%

(3) 職員体制

職 種	配置人数	備 考
園長	1	児童発達支援管理責任者兼務
保育士	4	
支援員	1	
計	6	

2 重点実施事項

(1) 利用率の向上

80%を目標としていましたが、年間70%と目標に到達しませんでした。年度当初は好調でしたが、新型コロナウイルス陽性者が併用先で発出したことによる欠席や、3月に当園で陽性者が出たことでの休園、退園した空きを埋められなかったことなどの理由で利用率は上がりませんでした。今後も利用率を上げることを必須の課題として努力していきます。

(2) 業務の整理

雇用形態ごとに業務の分担を行いました。特に短時間職員の仕事について割り振り、自分の仕事を把握してもらうように努めました。現場での動きやすさや負担の軽減に繋がりました。

(3) 専門的な知識や技術の習得

内部研修でペアレントトレーニングについて学んだり、発達支援の専門誌を購読し、「気持ちの切り替え」など障害についての知識・支援の方法などについて学びました。学んだことは職員へ周知し、支援に活かすことができました。

3 事業報告

(1) 利用者支援

ア 集団生活に適応する力を育てる

(ア)食事、排泄、着替えなどの生活習慣や動作をできるだけ自分でを行い、自信がつくよう支援をしました。苦手なところは分かりやすく伝えたり、「自分でやってみよう」という意欲を持ってもらうようにスモールステップで支援を行いました。

(イ)遠城寺式乳幼児分析的発達検査法や乳幼児精神発達診断法などの発達検査を定期的実施して発達を確認し、職員間で情報を共有しながら個々に合った支援を行いました。

イ 療育専門指導

定期的な療育の訪問指導を行いました。指導者と情報交換を行い、子どもの発達についての情報を共有しました。また、指導者からのアドバイスを参考に日々の支援を行いました。

ウ 家族支援

(ア)先輩保護者との情報交換の場は、新型コロナウイルス感染予防のため実施できませんでしたが、就学に関する情報は積極的に発信してその都度相談を行

いました。放課後等デイサービスが近隣に増えてきているため支援センターと連携しながら情報を提供できるように努めていきます。

(イ) 兄弟姉妹への関わり方について、グループ親子登園日の時に意見交換をしました。兄弟もまだ小さいこともあり、障害についてどのように伝えるか悩む姿も見られました。今後もこのような機会を提供していきたいと思えます。

エ 虐待防止対策

(ア) チェックシートを利用して、支援が適正か確認を行いました。虐待に繋がりそうな状況（活動の切れ間に子どもを待たせてしまう等）を確認し、改善することができました。

(イ) 内部研修として、虐待防止マニュアルの読み合わせや支援の振り返りを行いました。どのように支援したら良いか迷うケースについては、職員間で話し合い、支援の方向性を共有しました。

(ウ) 新型コロナウイルス感染予防のためボランティアや実習生の来園がなく、支援についてのアンケートの実施はできませんでした。

(2) 働きやすい職場づくり

ア 業務の見直し

雇用形態ごとに業務を明確にして割り振りを行いました。また、残業の軽減のために日中の時間帯に順番で事務仕事や活動準備ができるように調整しましたが残業の軽減にはなかなか繋がりませんでした。

イ 年次有給休暇の取得促進

お盆や連休時など、園児の利用が少ない時に休みが取れるように調整し、全職員が年次有給休暇を5日以上取得することができました。

(3) 人材育成

ア 発達支援の専門的な知識の習得

外部研修には参加できませんでしたが、発達支援の専門誌や Web 配信による情報を職員間で共有して支援の向上に繋げました。

イ 職務点検の実施

職務点検シートを活用して目標を持って仕事に臨むことで、自分の課題を意識して仕事に取り組むことができました。

< 職員の研修 >

※外部研修

研修名	主催	期日	参加人数
「福祉サービス 苦情解決セミナー」(オンライン)	埼玉県社会福祉協議会 埼玉県運営適正化委員会	10月5日	1名
「埼玉県サービス管理責任者等更新研修」(オンライン)	埼玉県	1月21日	1名
動画で学ぶ発達障害障害 「子育てストレスをちょこっと減	埼玉県発達障害総合支援センター	1月27日	1名

らすコツ」(Web 配信)			
虐待防止マネージャー研修会 (Web 配信)	全国社会福祉協議会	2月24日	1名

※内部研修

研修名	期日	参加人数
「障害者虐待防止法の理解と対応」 読み合わせと支援の振り返り	12月17日	6名
ペアレントトレーニングについて	9月27日	3名

(4) リスク管理

ア 災害対策

- (ア)地震、火災、水害、防犯などの避難訓練を毎月実施しました。隣接のすみれ保育園とも連携を取り、一緒に避難訓練を行いました。また、マニュアルを見直し、避難の仕方などの確認を行いました。
- (イ)保護者会で災害時のマニュアルや対応の仕方について保護者へ説明をしました。幼稚園と併用していて避難訓練を行う日に利用していないお子さんもいるため、訓練の内容などを知る機会となりました。
- (ウ)目の届く場所にマニュアルの掲示をしたり、避難訓練前にマニュアルの再確認を行いました。緊急時に慌てずスムーズに動けるように今後も定期的な確認を行っていきます。

イ 安全確保

- (ア)子ども達が活動する場所や使用する物品の安全点検を定期的に行いました。必要に応じて補修や取り替えを行い、安全に子ども達が過ごせるように努めました。
- (イ)ヒヤリハット事例は少ない件数でしたが、事例をもとに職員間でどのような時が危険か共有をして支援をすることができました。

ウ 個人情報の保護

個人情報の使用同意書を保護者の方に記入してもらい、職員間で情報を共有しました。写真を撮る機会が多いため、写真や映像を撮る時にその都度確認し、安全に使用できるように努めていきます。

(5) 感染症防止対策

ア 健康・衛生管理

子ども、職員ともに検温や体調チェックを行ったり、手指や器物の消毒を徹底しました。特に、子どもの玩具には細かいものがあるため、遊びに入る前に消毒を行うように注意しました。また、マスクの着用を無理しない範囲で練習を行い、着用できる子どもが増えました。

イ 環境の調整

子どもが密集しないように活動内容を考えながら支援しました。また、室温

を調節しながら、室内の窓は少し開け、換気扇をつけたり空気清浄機を使用して換気を行いました。

ウ 情報周知、子どもへの伝え方

新型コロナウイルスに関する情報については、その都度職員へ周知しました。また、保護者に対し、園の対応について、体調等が悪化した時や周りに陽性者が出た時の自粛期間、再開の目安について、定期的に通知しました。子どもへは、コロナウイルスをアニメのキャラクターに例えるなどして分かりやすいように伝えました。

エ 感染状況

新型コロナウイルス感染予防の対策を講じていましたが、3月7日に陽性者が2名（園児1名 職員1名）発出しました。保健所の指示を仰ぎ、久喜市や法人本部と相談し、翌日3月8日～11日までを休園としました。その間に園児1名の感染が分かりましたが、陽性者は重症化することはありませんでした。

（6）地域交流

ア 地域の関係機関との連携

保健センターや久喜市の子ども未来課、支援センター等の関係機関と連携を取り、情報を共有しました。また、併用をしている子どもが通園している園とは定期的に訪問や電話で連絡を取り合い連携に努めました。

イ ひよこ教室、すみれ保育園との交流

すみれ保育園の園児とは、園庭での遊びの中で関わりを持つことはありましたが、新型コロナウイルス感染予防のため交流活動の機会を持つことはできませんでした。ひよこ教室との交流も同様です。

（7）事業運営（収益の向上）

ア 空席のカバー

併用をする子どもが利用しない日を有効活用できるように、定員より多く受け入れました。また、報酬単価が昨年度より上がったこともあり、収益は増えました。子どもの安全を確保できる体制づくりをしながら、今後も収益の向上に努めていきたいと思えます。

イ のぞみ園のアピール

地域のイベントには、新型コロナウイルス感染防止のため中止となり地域へのアピールができませんでした。今後もこのような状況が考えられるため、SNSや法人のHPなどで情報の発信、アピールをしていきたいと思えます。

ウ タブレットを利用した子どもへの支援

タブレットを使用しての個別活動を行いました。動物や昆虫のキャラクターが次々に出てくるところを指で押すなどのアプリを使って注視・追視の訓練や、集中して座る時間を作りました。楽しみながら課題に取り組みました。ブルーライトの影響などのデメリットもあるため、時間を決めながら行っていきたいと思えます。

(8) その他

建物や設備の維持管理

建物や備品の老朽化により、不具合が出てきて修繕、交換する頻度が多くありました。引き続き日常の点検を行いながら安全に子ども達が過ごせるように管理をしていきたいと思えます。